

No.34 「ことば 3」

おはようございます。校長先生の声、みんなの心に届いていますか？

いよいよ6年生は最後の児童朝会になりましたね。この1年間最高学年としてよく聞いてくれました。みんなの聞く良い姿勢はいつも下級生のお手本になっていたと思います。今日も最後までよろしくお願ひします。

それから、「人権の花」に協力したということで、こんな立派な賞状をいただきました。少し前に2年生と5年生のお友だちが、学級園のところのプランターに、たくさんチューリップを植えてくれました。それが、その人権の花です。4月になるときれいに咲いてくれそうですね。

そして、募金箱を設置してほしいというお願ひがありましたので、今回日本盲導犬協会の方にお願いしまして、こんな素敵なお金箱をいただきました。盲導犬というのは、くわしくはまた別の日にお話しいたしますが、目の不自由な人を助けてくれる犬のことです。必要としている人は多いのですが、盲導犬はまだまだ足りません。皆さんの募金で育てるお手伝いとなりますので、よろしくお願ひします。

さて、前回のお題は、人類がはじめてしゃべった言葉は何ですかという質問でした。そして途中で「どんなときにはじめてしゃべったでしょうか？」というお題も追加しました。いずれもたくさんのお友だちが答えてくれました。ありがとうございます。

まず、はじめてしゃべった言葉ですが、正直どんな言葉をしゃべっていたのかは、わかりません。たぶん「ウー」とうなるような感じのことばだったと言われていますが、いまだよくわかつていないので。

どんなときにしゃべっていたのかは、想像できます。みんなの答えの中にもありましたよ。人

はどんなときに、しゃべらざるを得ないのか。どうしてもしゃべらないといけないときって、どんなときでしょうか。

朝起きて、学校きて、友だちと勉強したり、遊んだり、そして家帰ってご飯食べて寝る、この間絶対にしゃべらないといけないときって、実はほとんどありません。もちろん、しゃべった方が、おもしろいし、より豊かな生き方ができるので、おしゃべりは大切ですが、絶対にしゃべらないといけないときって、実はあまりないかと思います。

では、ひとが絶対にしゃべらないといけないときって、どんなときでしょうか？

そう、命の危険がせまっているときです。

さあ、今日は北京原人さんに来てもらいましたよ。少しインタビューしてみましょう。

ペキン原人さんは、どんな暮らしをしているのですか？

「現代のみなさんと違って、毎日が戦いだ！」なぜ戦うのですか。「それは、食べ物を得るために戦わなければいけないのだ！」「毎日葉っぱやどんぐりだけでいいなら別に構わないが、お肉やお魚なども食べたくなる。そのときは、自分で捕まえて食べるしかないのだ！」スーパーやコンビニで買わないのですか？「それらのものはない。そもそもお金というものがなのだ。お肉がたべたければ、自分でマンモスや大きなネズミのような動物をつかまえるしかお肉を食べる方法はないのだよ。」「そんなときに、当然命の危険がでてくるのだ。」

「たとえば手に槍をもって、マンモスみたいな大型動物をおいこんでいく。そのときはもちろん相手に気づかれてはいけないので、だまって囲い込んでいく。」「そんなとき、ふと友だちを見ると、前ばかりに注意していて、後ろからきている大きな毒蛇に気が付いていない！」「このままでは友だちが毒蛇にかまれて死んでしまう。」

みなさんならどうしますか？

当然「うしろ！」と叫びますよね。ここは、絶対にしゃべる必要があるシーンです。

「また、ひとりで山のきのこをとりにいっていったとき、井戸みたいな穴に落ちたのだよ。」「深い井戸で自分一人で登ろうと努力したが、どうしても登れない。」「1日中登っても登れない、2日目も、3日目も。おなかは減るし喉は乾くし…。」「疲れはてて、あきらめて井戸の底に座りこんでいたのだ。そんなときにふと耳をすますと、友だちが上を通っているではないか！」

皆さんならそのとき、どうしますか？

「助けて！」と叫ぶはずです。

おそらく、人類はじめての言葉は、命の危険があるときの「助けて！」のような叫び声だったのでないでしょうか。

校長先生は、みなさんに小学校の6年間で身に着けて、使えるようになってほしい言葉が3つあります。1つ目は「ありがとう」です。そして2つめは「ごめんなさい」。3つめにこの「助けて」という言葉です。

この「助けて」という言葉は、毎日の生活であまり使わないかもしれません、「命を助けて」とまではいかなくとも、これに近い状態は毎日の授業中にも起こっていませんか？

そう、勉強のときなど、わからないときや、困っているときに、まわりのお友だちや先生に「わかりません、助けて！」と言えていますでしょうか？

注意してほしいのは、わかっている人から、「ここ教えたろか」ではなく、わからない人、困っているひとから「ここわからへんねん。教えて。」と言えることがとても大切なことです。そして、言われた人は、丁寧にその人がわかるまで教えることが重要です。

さて、ここまで、人類初めての言葉について考えてきましたが、どうしてこの北京原人から言葉をしゃべっていたとわかるのでしょうか。ラミダ

ス猿人でもなく、次に出てくるネアンデルタール人でもなく、この北京原人からしゃべり始めたというのはなんでわかるのでしょうか？カセットテープやCD、スマホなど録音するものもないのに、どうして北京原人がしゃべっていたとわかるのでしょうか？北京原人がしゃべっていた証拠はなんでしょう？

これが今日のお題です。こうかなあと思うものがありましたら、校長室前のボードに書きにきてください。今日も最後まで聞いていただきありがとうございました。